

平成 20 年度海外研修報告書

磐田市立総合病院 寺田 理希

1) 参加した目的とその成果

参加目的は、他施設のスキルの高い方々とコミュニケーションをとる事、放射線技師として視野を広げる事、最先端の医療画像の現状を知る事、研究に対する姿勢を学ぶ事、超高磁場 7T MRI についてなど色々とありましたが、満足のできる大変に楽しく有意義な研修でした。

コミュニケーションについては、一週間の共同生活をしたこともあり、他施設の事、放射線技師の今後の進むべき方向性など色々な情報交換ができました。また、米国の技師の方ともワイン・チーズ・レセプションの時間を通して会話（通訳を通してですが）もすることもでき、とても刺激になりました。本当に大きな人脈を得ることができたことに満足しています。講義としては、Hyperpolarized MRI and MRS の講義が大変に興味を引きました。その他の大きなイベントとしては、実際に 7T MRI 装置を見て体験したことです。画質としては、まだ研究段階でもあり磁場の均一性、コイル、SAR など難しい点も多いようでしたが、SNR も高く技術の進歩によっては近い将来に期待できるものでした。実際に 7T の中に入れてもらえる機会もあり、磁場酔いに心配でしたが自分は大丈夫でした。当院で 7T MRI を導入しても操作ができそうです。実際の画像を見た事、磁場にふれるなどの実体験は大変に貴重な体験をさせていただきました。

2) 日本と米国の放射線技師制度の違いをどのように感じたか？

放射線技師制度について米国の特長は、学位が生かせる研究施設があることや技師免許以外にライセンスを取得することによって分業制が確立していて、所得も違っていることでした。また、2交代制で AM9 時から PM11 時まで装置は長い時間活用されます。日本の特徴で利点は、技師免許を取得すれば、CT、MRI などすべてのモダリティが操作できるし、17 時以降で装置がフリーなれば研究を行うことも自由にできることであり、欠点は学位を生かせる環境設備不足や認定制度が業務の決定や給与に反映しない事などが考えられます。これからの日本では、学位や認定制が生かせる環境や給与体制を構築していくために日本独自の体制作りの必要性を感じました。

3) 今回の研修で得たことを今後どのように生かしたいか？

たくさんの人との出会いや普段経験できない体験を出来た事は、自分自身にとって大きな財産になったと思います。このような経験で得た知識などを生かして、これから学会活動や自身のスキルアップに役立てたいと思います。また、Dr.Glazer の講義の中で学んだ「百聞一見にしかず」みたいなインパクトのある画像を目指して工夫や努力をしていきたいと思いました。

この海外研修では、本当にすばらしい体験や人脈を得ることができ、放射線技師としてだけでなく社会人として視野を広げるよい機会ですので、来年も継続していただけてより多くの放射線技師の方に参加していただきたいと思います。

最後に、今回ご協力いただいたスタンフォード大学の皆様、現地のスタッフの皆様、日本放射線技術学会の皆様に感謝申し上げます。

お気に入りの写真：300MHz MRI に入る前に記念写真。
手を振ってご機嫌です。

